Unit 14 名詞の前に来る形容詞

理論的には、名詞の前に使用できる形容詞の数に限りはありません。しかし、現実問題として(ことばの遊びでもない限り)、そんなに形容詞を並び立てる人もあまりいないのも事実です。核名詞に先行する形容詞は多くてもせいぜい３つ程度でしょう。例えば She is a sweet charming young lady.(彼女は甘くて、チャーミングで若い女性だ)だと自然な感じがしますが、She is a sweet charming obedient young lady.(彼女は甘くて、チャーミングで、従順で、若い女性だ)だと、ややしつこい感じになってしまいます。

形容詞の順序の傾向

名詞の前に来る形容詞の数はせいぜい３つ程度だとのべましたが、その並べ方の順序に決まりがあるでしょうか。学習文法書などでは次のような規則が一応の目安として書かれています。

限定詞＋大小・形+形状・色+新旧+材料・所属+名詞

e.g., those last three big red (new) American cars
(江川泰一郎『英文法解説:改訂新版』)

しかし、ここでの順番は厳密なものではありません。次のようなテスト文を、英語を母語とする人たち与え、形容詞の順番の安定度を調べて見ると順序にバラツキがあることがわかります。

This is a/an (　　)(　　)(　　) car.
{large, American, red}

この例で言うと、名詞の直前に「所属」を表す American が来るという点については一致しますが、large と red の順序にはばらつきがみられます。では、順序を決める原理は何でしょうか。基本的には、以下の３つの傾向を知っておけばよいだろうと思います。

傾向1	主観的なものから順に客観的なもの、心理的なものから順に知覚的なもの、という順序になる傾向がある。
傾向2	切り離せない、名詞の持つ生来的な属性を表す形容詞ほど、名詞の近くにくる傾向がある。
傾向3	名詞直前の形容詞は名詞に吸収されて、名詞とともにひとまとまりの意味を表す傾向がある。

傾向の１と２は同じことを別の方向から言っていることになります。ある対象について印象的なもの(主

観的、心理的なもの)が先に言語化されます。これは、思いついたことを言語化していくという会話においては、特に顕著な傾向となります。傾向の 3 について言えば、〈大きい都会〉が〈大都会〉、〈白いワイン〉が〈白ワイン〉といったぐあいに、複合名詞になるケースが日本語でも見られます。英語でも同じです。例えば、three Japanese wooden chests (3 個の和製の木ダンス)とも three wooden Japanese chests(3 個の木製の和ダンス)ともいいますが、前者では wooden chests(木ダンス)、後者では Japanese chests(和ダンス)がまとまって処理される傾向にあります。名詞に吸収されるということを考えると、名詞の生来的な属性は名詞の直前に来るという傾向(2)も理解できるでしょう。文法書の規則で言えば a round old table (丸い古いテーブル)であって an old round table(古い丸いテーブル)ではない、ということになりますが、実際には an old round table という言い方も可能で、形状によって分類した round-table (丸テーブル)と処理される傾向がある、ということになります。

名詞の前の修飾語には some とか three といったものもあります。そこで、少し正確な言い方をすると、名詞の前の修飾語の順番は次のようにまとめることができます。

限定詞	a, the, some, his, her, your...
数詞	three, third...
印象的なもの	どのようなもの? clean, beautiful, gorgeous... 大きさは? small, huge, large, massive... 形は? square, round, flat... 古さは? new, old, modern... 色は? red, brown, bright...
属性は?	国は? French, Thai, Chinese... 何で出来ている? wooden, silk, cotton...
核となる名詞	chest, car, dress...

つまり、限定詞の次に数詞、それから形容詞と続くわけですが、形容詞の順序は印象的、主観的なものがより属性的、客観的なものに先行するということです。